

「安心」を支える消防をめざして

たんごの風



vol.14



手のひらで読み取ります

7月3日(水)に、高齢聴覚言語障害者地域生活支援事業の利用者の皆さんが、峰山消防署で訓練の様子や、救急車等の資機材を見学されました。

中でも、視覚・聴覚共に障害をもっておられる方が、ボランティアの方の指で手のひらに文字を書いてもらいながら、一生懸命学習しようとしている様子に、こちらの説明にも力が入りました。

特集... 私たちの防災
119通報したことありますか
心肺蘇生法「小児編」

火災・救急・救助は

119

(携帯電話も同じです)

私たちの防災

手話を通して・手のひらに書かれた文字を感じて・もしもの時に自分を守る体験を



消火用のホースも触れてみて実感(視覚・聴覚共に障害を持たれている方)

昨年(注)に続き、今年も高齢聴覚言語障害者地域生活支援事業(注)の利用者の方々が、峰山消防署に見学に来られました。新しくなった指令室の見学を始め、煙が充満したまっ暗な部屋の中を歩く訓練など、手話や触手話、また、実際に触れてみたりと大変熱心に勉強されていました。そこで今回、消防署に来られた感想などをお聞きしようと、ろうあ者の方々が集まっておられる丹後聴覚言語障害センターにお邪魔しました。

年に一度は消防署

丹後聴覚言語障害センターの岩城宏允さんにお話をうかがったところ、消防署への見学は「今年、消防署の指令室が新しくなったと聞き、緊急通報装置などの設備が自分たちにとってイザという時にどれ程身近で役に立つシステムであるのか自分の目で確かめたい。日常の中で火事や災害への関心が薄れないように、そして私たちが始め、この丹後には多くのろうあ者がいるということ消防署のみ

なさんにも知ってもらいたい。そのため、年に一度は消防署とかかりを持つようにしよう、というみなさんの意見で昨年から見学が始まりました」とのことでした。実際に訪れて、119番すると同時に地図が表示されるなど、指令室がすばらしい設備であることを実感し、安心して眠れるようになった」と話す方もいらっしゃいます。みなさんの中には、障害を持つ方同志、また、健常者のご家族と一緒に生活している方など様々ですが、一緒に生活する上で何かと大変だといわざるを得ません。今

*注 高齢聴覚言語障害者地域生活支援事業は、丹後6町から補助を受けて月2回行われています。聴覚言語障害をもつ利用者の方々が集い、保健師さんによる健康相談や、日常生活で欠かすことの出来ない情報の保障や学習を行っています。実施機関は丹後聴覚言語障害センターです。



防火服や暗い部屋を体験

回指令室を見学されて、安心感を持っていただいたようです。

火の用心 暮らしの中のひと工夫

実際、お話を聞くと、自分の家から火災などを出さないように、火の出ない電気式の調理器具に替えたり、消火器を置いてある方、中には毎日欠かさず就寝前には火の元の点検をしたり、以前、耳が聞こえないためお湯の沸騰に気づかず怖い思いをして、それから火を着けたときは切るまでずっとコンロを見ていると話される方もおられました。

また、「以前、はしごから落ちて腰を打ち、健常者の夫が119番通報してくれ救急車にお世話になったが、会話が出来ないため身振り手振りで腰の痛さを伝え

ました。こんな時、もし、救急隊員の中に手話ができる人がいればもっと正確に伝えることができたのにとのことでした。他にも、「火事や救急など緊急のときにお世話になる消防署の方だけでなく、役場など各行政機関の中で、何人か手話の出来る方がいれば心強いのですが」という救急の体験談は考えさせられるお話でした。こういったニーズもあり、消防署では「手話教室」を計画しているところです。

日々のふれあいが 不安を解消

毎日生活する中で地震や災害に対して高い関心を持ち、災害への備えや火の用心に人一倍気をつけておられるろうあ者のみなさんですが、その一方で日頃から不安に思い一番心配されていることは、

災害が起こった時の連絡体制や避難誘導のことでした。

みなさんの中には地域や近所で行われる訓練や話し合いの場に参加したことがないといわれる方が多く、日頃の付き合いやコミュニケーションに不安を感じておられるようです。また、訓練に参加したけれど手話の出来る人がいなかったため、コミュニケーションをうまく取ることができなかつた事もあつたそうです。

こうした中、実際に災害が起こった時に「近所の人との災害情報の伝達ができるのか。避難場所まで避難できるのか」と不安な気持ちを持ちながら日々生活していると話す方もおられました。

高齢者や身体障害者の方にとって、地域や近所での日々のふれあいやコミュニケーションは、生活する中で非常に重要な役割を果

たしています。日々の何気ないふれあいの関係が出来ることにより、災害時の不安がひとつ解消でき、災害に対するの迅速な対応へとつながるのではないのでしょうか。地域・近所同志の日々のふれあいが、万が一の時の連携につながります。



119番通報が入ると地図が表示されます

みなさんからも話しかけを

手話奉仕員 神南 美枝子さん(網野町)

災害で命の危険が迫っている時、たとえ手話など知らなくても身振り手振りで助け合うことができるはず。

知らないから、難しそうだからといって二の足を踏まず、日頃から近所の話とか、何でも良いから積極的に話しかけてあげてください。地域の消防訓練などにもぜひ参加を呼びかけてあげてください。

そういったコミュニケーションが、いざという時のスムーズな助け合いや連携を可能にするとします。

119 通報したことありますか

平成14年3月から峰山消防署の新しい消防緊急通信システムが動き出しています。119番通報から出動までの流れを紹介いたします。

場所を確認します

火災や救急のとき119番をすると、瞬時に通報場所が画面表示され(携帯電話での通報は除く)災害場所の確認時間が短縮されます。新築の家などは地図表示がない場合があります。近くの目標物などを伝えてください。



地図検索装置

災害種別を確認します

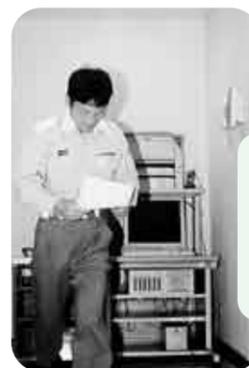
災害種別(火災、急病、交通事故など)を入力することにより、コンピュータで自動的に出動する隊を選びます。



車両運用表示盤

出動します

出動内容を自動的に放送するとともに、地図付の指令書を出力し出動を確実なものにします。



音声合成装置

指令室からのお願い

「とにかく、早く来てください」とよく言われます。指令室員は通報内容を聞きながらコンピュータを操作し、自動で車両を出動させています。あわてず状況を伝えて下さい。「網野分署に電話して救急車を呼んでもいいの?」
分署などに直接電話される方がおられます。この場合現場確認にまどる場合や、指令室員に詳しい情報が入らず伝わらないなどにより、病院の手配が遅れる場合があります。迅速・的確に活動するためにも局番なしの119番で通報してください。

「携帯電話はどこにしているの?」
ほとんどは宮津与謝消防署につながります。「町」からの通報であることを伝えると、峰山消防署へ転送されます。通報後しばらくは問い合わせをする場合がありますから電源を切らないで下さい。
携帯電話はどの場所からでも通報できる一方で、正確な場所を教えていただかなければ現場に早く到着することができません。

心肺蘇生法(CPR)が

わかりやすく・簡単に

『小児編』

前号でふれたとおり、今年の4月から消防機関で行う救急講習会の内容が少し変更されています。今回は、よりわかりやすい方法に変更になった小児の心肺蘇生法を紹介したいと思います。

それから、みなさんにお願ひがあります。救急講習会の会場で心肺蘇生法の実技を受けた方が家に帰って旦那さん又は奥さんを相手にもう一度練習をしようとしてよく聞きますが、これはあくまでも心肺・呼吸機能が停止した人に実施する行為であるため絶対にやめてください。
万が一の事故に備え、愛情をもって身につけてください。

小児での主な改正点

改定前	+	改定後
心臓マッサージの回数 小児 「1分間に80~100回」 乳児・新生児 「1分間に100~120回」	→	小児・乳児 100回 に統一 新生児 120回 に統一
人工呼吸の量 小児・乳児・新生児 胸が軽く膨らむ程度で上腹部に膨満の見られない量	→	胸が軽く膨らむ程度に吹き込む
人工呼吸の回数 小児・乳児 「4秒に1回」 新生児 「3秒に1回」	→	小児・乳児 5秒 に1回 新生児 そのまま 3秒 に1回

重要
心肺停止状態になったら、119番通報する前に1分以上心肺蘇生を実施してください。(周りに誰もいない場合)

心肺蘇生法とは停止した心肺機能と呼吸機能を回復させる応急手当です。新生児とは生後28日未満で、乳児は生後28日以上1歳未満、小児は1歳以上8歳未満をいいます。



大切な意識確認

意識状態を確認することは応急手当の第一歩です。呼び掛けや肩を叩くなど、刺激を与えて確認します。その結果目をあけるのかあけないか、会話ができるのかどうか、あるいは表情の変化や体の動きの有無などを調べます。
意識状態が悪い場合には重症な例が多いのですが、断言はできません。



救急救命士 中村一隆

例えば、子供の発熱による熱性ケイレンの場合、意識はなくなりませんが、ケイレンが治まると意識も徐々に回復し、後遺症も残らず軽症で済みます。逆に重症例が多いクモ膜下出血の典型例は、初期に激しい頭痛を訴える、つまり意識があるということです。
意識状態の確認は、応急手当の次のステップである窒息の防止(気道確保)や呼吸、脈拍(循環のサイン)の有無の確認へとつながって行きます。

最悪は死ぬことも...

健康な人に心肺蘇生法を実施すると、正常に鼓動している心臓のリズムが狂い不整脈を起したり、また、肋骨等を骨折する恐れがあります。トレーニングは絶対しないで下さい。

絶対しないで下さい。



ワシもガンバルぞ～

普通救命講習会

峰山消防署では7月25日と8月27日に普通救命講習会を行い、たくさんの方が救命の知識と技術、命の大切さを学びました。今後も消防署では講習会を開いていきますので、参加されたことのない方ももちろん、受けたいところがある方も再度参加してください。



呼吸の確認も大事です

命を救った救命法 バイスタンダーに感謝状

8月19日に網野町字掛津の琴引浜海水浴場にて、高波により溺れた男性を、掛津観光協会長である岡田一雄さんと、監視員の奥田圭朗さんが協力して心肺蘇生法を行い、無事男性が救命されました。

そこで今回、消防署から感謝状を贈り、今後もバイスタンダーとして活躍していただくようお願いしました。

岡田氏は過去に育友会で応急手当講習を2回受けられており、その経験が今回の人命救助に生かされました。



網野町字掛津 岡田一雄さん



網野町字島津 奥田圭朗さん（父親の正直さんが代理）



7/18 服を着たままでの水泳訓練、難しいでしょう (網野町 網野南小学校)



7/5 仕事中のケガから身を守るため、救急安全講習会を受けられました (丹後瓦工業組合青年部)



7/5 防災七夕、僕たちのお願いかなえてくれるかな (丹後町 豊栄保育園)

目指せ消防士 職場体験学習

8月7日と8日の2日間、峰山消防署に網野中学校2年生の男子生徒4名が職場の体験に来ました。消防署の仕事を経験していた皆さん、いかがでしたか。

職員と一緒に消火器をチェック (JA峰山本店)

筒先しっかり持って放水開始

自分の脈拍とれるかな

油圧カッターで鉄パイプを真っ二つ



職員と一緒に消火器をチェック (JA峰山本店)



筒先しっかり持って放水開始



自分の脈拍とれるかな



油圧カッターで鉄パイプを真っ二つ

消 防 の 広 場

掲示板

みんなの感想文

楽しかった消防署

今年もたくさんさんの小学生が消防署に見学に来てくれました。救急車に乗ったり、煙の迷路を体験したり、楽しかった思い出を感想文にして送ってくれました。

消防士さんへ
いろいろなことをしているのがよくわかりました。
この前は、ありがとうございました。
つぎは、はさんで「さき」のきかや
ドアを開ける練習がしたい
と思いました。
緑のランナーがつかっているボールは
すいているので、ぼくは嬉しくなりました。
いつか注意はす、お礼が
どうですか。

末次 政基君 (大宮第1小)

消防士さんへ
わたしは、あんな面白い物を持って
るからカモちゃんと思いましたが、
わたしは、お母さんに消防士のこと
を話したら、じいちゃんも
びっくりしました。
わたしも、消防士になるので
がんばって仕事を
してください。

荒井 紀梨子ちゃん (大宮第1小)



あの時は、長いお話をしてくれて
ありがとうございました。見学でよく
わかりました。わたしは、
消防士さんになりたいです。
わたしは、お礼のカードに
すくすくお礼の気持ちを
わけてあげたいです。がんばって
まわります。

松本 五月ちゃん (大宮第1小)

消防署のことがよく分かり
ました。本署に、
ありがとうございます。
6月21日に消防署
に行き、
消防士さん
と話をしました。
消防士さん
は、とても
偉い人です。
わたしも
消防士さん
になりたい
です。

田村 祐樹君 (丹波小)

消防署の
お話を聞いて、
消防士さん
は、とても
偉い人です。
わたしも
消防士さん
になりたい
です。
消防署の
お話を聞いて、
消防士さん
は、とても
偉い人です。
わたしも
消防士さん
になりたい
です。

祝前 麻里奈ちゃん (丹波小)

快拳



コッチー君 (全国大会マスコット)

5人が全国大会へ

消防職員の救助技術を競う全国救助技術大会が、8月23日に名古屋で開催されました。
丹後広域からは、5年ぶりに2種目5名が東近畿地区代表として出場し、普段の力を存分に発揮してくれました。



木村雅弘



村野二郎



山本景一



木下夢大



井上忠司

ロープ応用登はんの部

ほふく救出の部

秋の火災予防運動

11月9日～11月15日まで

空気が乾燥して火災が起こりやすい季節になりました。
冬場に向かい、ストーブなどさらに火の取扱いには注意してください。

全国統一標語

「消す心置いてください火のそばに」

編集後記

「自分たちの生活にどう役
立つものなのか実際に確か
めてみたい」と、丹後にお
住いのろうあ者の方々が、
3月に運用スタートした新
指令室を見学に来られたま
した。表紙の写真にもあるよ
うに、視覚障害の方はボラ
ンティアの方の触手話を通
じて、ろうあの方は手話を
通じての熱心な見学でした
カメラのシャッターを切
りながら、その熱心さに改
めて感じた次第です。